

国際人材育成プロジェクト「対話で平和を組み立てる」

メンバー紹介

ワーキング・グループ 1 (新興技術と核兵器)



サチダ・パチャッパン (座長)

ミラノ工科大学核保障措置修士課程を修了。フランス・リール・カトリック大学にて国際安全保障政治学の修士号も取得。国際法、武力紛争、人権を専門とするこれまでの経験を基盤に、学際的な核リスク管理を研究の焦点としている。デュイスブルク・エッセン大学と連携する VeSPoTeC コンソーシアムより核検証の修了証を取得し、現在はミシガン大学が主導する監視・技術・検証コンソーシアム (MTV) を通じて原子力工学の修了証取得を目指している。学術活動と並行し、NGO やボランティア活動への関与を通じて、デジタルアドボカシーやプロジェクト調整の経験も有する。(マレーシア、フランス在住)



クダクワシェ・マパコ

国際法研究者。軍備管理交渉アカデミー (ACONA) フェロー、検証・研究・訓練・情報センター (VERTIC) のアフリカ核軍縮検証ハブの運営委員会メンバーでもある。以前はアフリカ科学国際安全保障センター (AFRICISIS) の研究官として、軍備管理・不拡散プログラムに従事。南アフリカ・ケープタウン大学にて国際法を専門とする法学修士号 (LLM) を取得。中国・浙江工商大学にて国際法を専攻し、法学士号 (LLB) を優等 (Cum Laude) で取得。(ジンバブエ、南アフリカ在住)



モーガン・スレサー

カナダ・バンクーバーを拠点とするアナリスト。ウォータールー大学にて政治学の修士号を取得。研究テーマは核拡散と新興技術 (特に 3D プリンティング) の交差点。韓国科学技術院 (KAIST) 傘下の核不拡散教育研究センター (NEREC) にてサマーフェローシッププログラムにも参加。過去 5 年間にわたり BASIC の「エマージング・ヴォイシズ・ネットワーク」のメンバーを務めている。(カナダ人、カナダ在住)



西山心 (にしやまこころ)

長崎大学大学院多文化社会学研究科在籍。核兵器廃絶研究センター (RECNA) 客員研究員。国際基督教大学 (ICU) 卒業後、ミドルベリー国際研究大学院モントレイ校にて核不拡散・テロリズム研究の修士号を取得。ウィーン軍縮・不拡散センター (VCDNP) での研究インターンシップ、包括的核実験禁止条約機構 (CTBTO) でのフェローシップを経験。現在は「核兵器のない世界を目指す国連軍縮局 (UNODA) ユースリーダー基金」のメンターを務める。



野田和毅（のだ かずき）

長崎大学多文化社会学部 4 年生。

国際公共政策コース所属。西田充 RECNA 教授の指導のもと、新興技術と核ガバナンスの関係、特に自律型システムにおける人間の責任のあり方について研究している。「長崎らしい学びを」という単純な動機から関心を持った核問題だが、長崎での 4 年間の学びを通じて「現実の問題」としての認識を高める。歴史や被爆者の声から学んだ視点を軸に、技術と倫理の両面から核軍縮に関する国際的な対話に貢献することを目指している。



山下洸生（やました こうせい）

長崎大学経済学部 3 年生。長崎で生まれ育った被爆 3 世。平和・安全保障には幼い頃から強い関心を抱いており、自主的にゼミに参加したり、日本国際問題研究所の軍縮・不拡散講座を受講したりするなかで学びを深めてきた。唯一の戦争被爆国の責任として、安全保障を実現することと核兵器廃絶を誠実に希求することを一体として解決するためには、どのように取り組めばよいかという悩みを抱えてきた経験から、安全保障に関する知見を組み入れた新たな平和教育の在り方を仲間とともに模索している。

ワーキング・グループ 2（記憶の継承と長崎の役割）



フェルナンド・フランコ・カストロ・エスコバル（座長）

キール大学博士課程在籍中で、若者の反核運動を研究中。研究資金はキール大学人文社会科学部およびデイヴィッド・ブルース米州研究センター（2023-2026 年）から提供され、広島市立大学広島平和研究所（2024 年）および英国チューリング・スキーム（2024 年）からも支援を受けている。グラスゴー大学の「新核時代における原子力不安フェロウシップ制度」（2025 年）および国連「核兵器のない世界のための青年リーダー基金」（2024 年）からも支援を受けた実績がある（メキシコ人、イギリス在住）



ヘイゼル・ロパファドゾ・ルザニ

ハラレ診断画像センター研修生、医療物理学者。核・放射線科学におけるキャリアは、治療と危害という二面性によって特徴づけられている。医療物理学者として、がんとの闘いにおいてその命を救う力を日々目の当たりにしているが、同時に、この科学が誤った手に渡れば地球規模の脅威となり得ることを痛感している。この認識が自分の専門的使命の原動力となっている。すなわち、技術進歩が責任ある政策と地球規模の安全保障への取り組みによって導かれることを確実にすることに取り組んでいる。（ジンバブエ、ジンバブエ在住）



イェルダウレット・ラクマトウラ

ASQAQ 連合（別名カザフ核フロントライン連合：QNFC）の共同創設者。核問題と AI ガバナンスの交差点で活動する JASA の創設者兼 CEO。2021 年以降、ICAN、IPPNW、IAEA、被爆者団体（ヒホン・ヒダンキョウ）と連携し、核問題啓発活動、核正義の提唱、トラック 1.5-2 外交に取り組んでいる。ブダペストにあるルドヴィカ公共サービス大学にて国際公共管理学のハンガリカム奨学生として卒業。KAIST-NEREC サマーフェロープログラム、CTBTO 研究フェロウシップ、市民ジャーナリズムアカデミーの修了生であり、グラスゴー大学「新核時代における原子力不安」フェローを歴任。カザフスタン・シムケント及びテリクスタン出身。（カザフスタン、ハンガリー在住）



秋月一志（あきづき かずし）

長崎大学多文化社会学部2年生。オランダ語特別コースに所属。高校時代に交換留学生としてオランダで1年間留学した経験から、オランダについてさらに学ぶことを決意。愛知県出身で、平和学習の経験はなかったが、このプロジェクトに全力で取り組む決意を固めている。日本人として、若い世代が被爆者の経験とメッセージを次世代に伝え、世界平和を実現する上で重要な役割を担っていると信じている。



バンダービーン新愛（バンダービーン にいな）

長崎大学医学部医学科の2年生。父はドイツ人、母は日本人で、母方の祖父母は共に長崎の被爆者です。医学部で放射線が人体に与える影響について専門的に学びながら、その知識を平和活動に活かすことを目指している。高校時代から平和活動に積極的に取り組み、核廃絶を訴えた弁論では全国大会で優勝した経験があり。ナガサキ・ユース代表団13期生として活動しながら、その他さまざまな団体にも所属し、長崎から世界へ平和のメッセージを発信し続けている。

ワーキンググループ3（気候変動と核兵器）



ガリーナ・サルニコワ（座長）

キャリアの大半を若者のエンパワーメントと軍縮に捧げてきた。現在はベトナムでデジタルトランスフォーメーションと若者の参画推進に取り組んでいる。以前は国連軍縮局（UNODA）の研究・教育コンサルタントとして、Youth4Disarmament 第2版のカリキュラム開発を担当し、日本政府の資金による「核兵器のない世界のための若者リーダー基金」の立ち上げに貢献した。2023年CTBTO研究フェロシップおよび2019年ICANアカデミー修了生でもある。日本外務省より任命された「核兵器のない世界のためのユースコミュニケーター」を務めた経験もある。BASICのEVNでは、核実験と社会的公正、核と気候の相互関係、NPTに関する研究を実施。ロシア・MGIMO大学（モスクワ国際関係大学）で国際関係学修士号、米国・ミドルベリー国際研究大学院（モントレイ校）で大量破壊兵器不拡散・グローバル安全保障学修士号を取得。（ロシア、ベトナム在住）



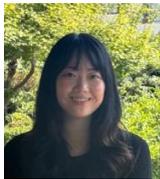
クリステル・バラカト

レバノン政策研究センター（LCPS）の公共政策研究員。「核兵器のない世界を目指す青年リーダー」、「未来へのリーダー」、「明日のリーダー」、国連軍縮局（UNODA）の軍縮分野における「青年チャンピオン」を務めている。（レバノン人、レバノン在住）



エミリー・デイ

地政学、原子力エネルギー、グローバルセキュリティを専門とする研究者、ライター、編集者。ナショナル・インタレスト誌『エネルギー・ワールド』の副編集長を務めるとともに、ロングビュー・グローバル・アドバイザーズの上級研究員として、公益事業、リスク、持続可能性、技術を専門分野とし、世界の政治・経済動向に関する洞察を提供している。以前はグローバル・セキュリティ・パートナーシップのデラ・ラッタ・エネルギー・グローバル安全保障フェローとして、北米における原子力エネルギープロジェクトの研究に従事した。ジョージア工科大学で国際安全保障の理学修士号を取得し、核拡散と新興技術、欧州・大西洋問題を研究。ジョン・キャロル大学で政治学と歴史学の文学士号も取得している。
(アメリカ、アメリカ合衆国在住)



桑原和花（くわはら わか）

長崎大学環境科学部3年生。特に核兵器と環境問題の関連性に強い関心を持っている。海外での生活経験を通じて、多くの外国人が長崎と広島に深い関心を抱いていることを知った。この歴史を日本国内だけでなく世界と共有し、次世代のための世界平和に貢献することが重要だと考えている。今後も学び続け、行動を起こすことでこのメッセージを伝えていきたいと願っている。



香月洸里（かつき ひかり）

長崎大学経済学部2年生。ナガサキ・ユース代表団第13期生の一員として、核兵器廃絶に向けた国際的な枠組みや各国の核兵器に対する見解について学んだ。このプロジェクトを通じて、自身の専門分野に関連した核兵器問題についてさらに学びたいと考えている。